

山神さん

植木屋の職人さんのお話。

自分の身に降りかかってみたことなのだけれども、不思議と思うことはあっても怖いと思うことはない。

むしろ、あれは何だったのかと不思議な体験だった。

とある現場にて大きなケヤキの木を切り倒す仕事があって、大体どれくらいだろうかな。20 mくらいある木だからかなり大きい部類なんだよね。

ふと見ると古い神社さんがあるわけですよ。

ああ、これは作業する前にちょっと手を合わせておかんといかんなあ。

と思ってちょっと親方に手を合わせてきますと言って手を合わせに行ったんですね。

お菓子をお供えして、まあ、ちょっと作業させてもらいます、煩いかもしれませんがどうかお許してください。

とちょっとお願いというかご挨拶させていただいたんですね。

それで、よく見ると、ああ、道祖神さんだったんですね。まあ、いいか。悪いようにはしてくれないだろうと。

手を合わせ終わっていざ作業開始したんですね。

作業は順調に進んでいっていったんですね。

流石に20mの樫を相手にする作業になる為、やっぱり木が重たいだけあって凄く手強いんですね。

1mの枝でも凄い音を立てながら地面に落ちていくんです。

枝をある程度落として幹にチェーンソーで切り込みいれてググッと力込めてもダメであーでもない、こーでもないってやって何とか切り倒したんです。

幹を切る時にクサビをチェーンソーを入れてる側に打ち込んでハンマーでカーンカーンと叩いたんですね。

木を切る時に上から圧力がかかるものですから、そうしないとどこに木が倒れるのかわからなくなるという危険性もあるんです。

それでクサビを打ち込んだら少しチェーンソーを回して切り込みを進めて、クサビを更に厚めにしてものを打ち込んでと2, 3回繰り返したんですね。

それで、パキッと音がしまして。ああ、これで倒れるなと思い周囲を確認して安全であると。

確認しまして、いざ倒れるわけですね。

ググッと木が倒れてドーンっと大きな音が響いたんですね。

直径が1.2mくらいになる幹から枝を落として幹をいくつも切り分けて、片づけていた時の事なんですね。

流石に1mの長さでも樗というのは重たくて1つの枝でもかなりの重労働になりましたね。

かなりの量ですから1日中運んでいるわけですよ。

ケツのポケット。作業着の尻の後ろにあるポケットにクサビを打ち込んだ時に使ったハンマーを入れていたんですね。

どうしても重たいものなので落としたりとかすると解りやすい代物なんですね。えっちらおっちら作業していて、失くしたらいやだなと思って何度かハンマーが落ちていないだろうかと触って確かめていたんですね。

ふと気が付くと。いつの間にかハンマーが無くなっているわけです。

おかしいな。何処に落としたのだろう。

ちょっとあたりを探したり、親方にもハンマー使ってないかとか聞いたりしたんですね。

んで、見つからないんですね。

近辺だけじゃなくて、車とか車の周辺、道具を置いているブルーシートの上とかも確認したんですね。

隅々まで探して「無い」な。と。

判断したわけですね。

そこで、ふと思いついたんですよ。

直感的なんですけどこれは山神さんじゃないかと感じましてね。

さて、これはどうしたものかと。

続きは本編をご購入お願いいたします。